



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和4年度6月号
令和4年5月31日(火)
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

「支え」があって、今がある

校長 三杉 紀文

紫陽花がきれいに色をつける季節となりました。

5月はゴールデンウィーク明けからテスト期間に入って、中間テストの実施、その後10日あまりで体育祭と、大変慌ただしい日々となりました。特に体育祭は、天候が心配されたり、参観者制限を設けさせていただいたりしての実施ではありましたが、お陰様で本校第50回目の節目となる体育祭を開催することができました。参観をご遠慮いただいた方も含めて、陰ながらご支援いただいた保護者、地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。

さて、この体育祭の開催にあたっては、大きく2つの「支え」を感じました。1つ目は、生徒たち自身による「支え」です。中間テストが終わった翌日から、毎日の昼休み、さらに放課後もそれぞれの種目の練習を積み重ねました。特に、各学年種目（1年生：因幡の白ウサギ、2年生：台風の日、3年生：大縄跳び）、むかで競争、リレーのバトンパスなどは、練習をしていないと、なかなかスムーズにできません。たとえば、大縄跳びは、最初は5回も跳べません。では、どうしたら多くの回数を跳べるようになるのか。学級ごとに試行錯誤が繰り返されます。時には、失敗が続いて気持ちが下がってしまうこともあります。それでも、互いに声を掛け合って気持ちを切り替え、試行錯誤の末にコツをつかむと、記録は伸びていきます。そして、体育祭当日は、自分たちがやってきた練習の量や工夫、その過程で練り上がってきた集団の雰囲気などを「支え」として、本番の競技に臨みます。体育祭当日のドラマは、こうした過程、「支え」があったからこそ、生まれたもののはずです。

2つ目は、保護者・地域の方々の「支え」です。5月21日（土）の午前中、体育祭に向けての環境整備として、PTAや小学校のおやじの会、若駒の里応援団（地域の方）など、保護者・地域の方々が総勢70～80名ほど参加して校地の除草作業などをしていただきました（野球部の生徒も手伝ってくれました）。途中、小雨に降られながらも、大人数のおかげで大量の草を除去することができ、気持ちよく体育祭を迎えることができました。自然に雑草がなくなったり、環境が整ったりしているのではなく、こうした面を手掛け、支えてくださっている方々のおかげで、きれいに保たれているのです。中でも地域の方々による若駒の里応援団は、こうした環境整備を中心に、長年にわたって本校を支援し続けてくださっています。今年度は、ちょうど本校創立50周年の節目にあたりますが、その節目の意義の一つとして、このような「支え」があってこそ、今があることを私たちは改めて理解しておく必要があるでしょう。

「支え」のおかげで今があることに、改めて感謝したいものです。